

気仙沼市における水産業の 復興計画に関する研究

～ふかひれ加工業について～

学籍番号: **0823012**

氏名: 楠見 真代

指導教員: 黒川 久幸 教授

目次

- 研究背景
- 研究目的
- 日本の水産加工業の概要
- 宮城県における東日本大震災の影響
- 気仙沼市が考える復興計画
- さめ加工業について
- ふかひれ加工業についての復興計画
- まとめ
- 今後の課題



研究背景

- 2011年3月11日に発生した、東日本大震災では岩手・宮城・福島の3県を中心に、甚大な被害を受けた。
- 震災前に東北に工場や営業所があった企業の中でも、環境問題や金銭的問題などから東北から撤退する企業がある。
- 企業が撤退してしまうと、被災地が復旧し発展していくためにはマイナス要素になってしまう。



研究目的

- 研究背景で述べた、東北からの企業離れが起きないようにするためには、震災前のように事業を継続できる復興計画を考える必要がある。

ふかひれ加工業の
復興計画を立案



水産加工業について

- 水産加工業とは



水産物を加工して冷凍・調理食品、練り製品、缶詰などの食品、畜産・工業原料を生産する産業。

- 日本の総合メーカー約1万3000社は、高度経済成長期に発展し、技術開発により量産加工が可能となった。



水産加工業について

○ 宮城県における水産加工業

練り製品や冷凍食品、生鮮冷凍水産物などの加工業が盛ん。

総生産量は北海道に次いで全国2位であり、2008年は40.5万トンを生産。

宮城県内食料品製造業に対する割合は、事業所数で50.3%、従業員数で40.5%、出荷額で46.2%となっており、水産食品製造業が宮城県において重要な産業であることがわかる。



東日本大震災の影響

- 宮城県内における死者・行方不明者は1万人を超え、住居被害は361,861棟におよぶ。
- 港湾→取付護岸の崩壊、エプロン沈下、コンテナ流出など。
- 142漁港はすべて被災、漁船の約90%に当たる12,000隻が流失・陸に打ち上げられるなどした。
- 被害総額は8兆4130億円(2011年12月5日)。



気仙沼市が考える復興計画

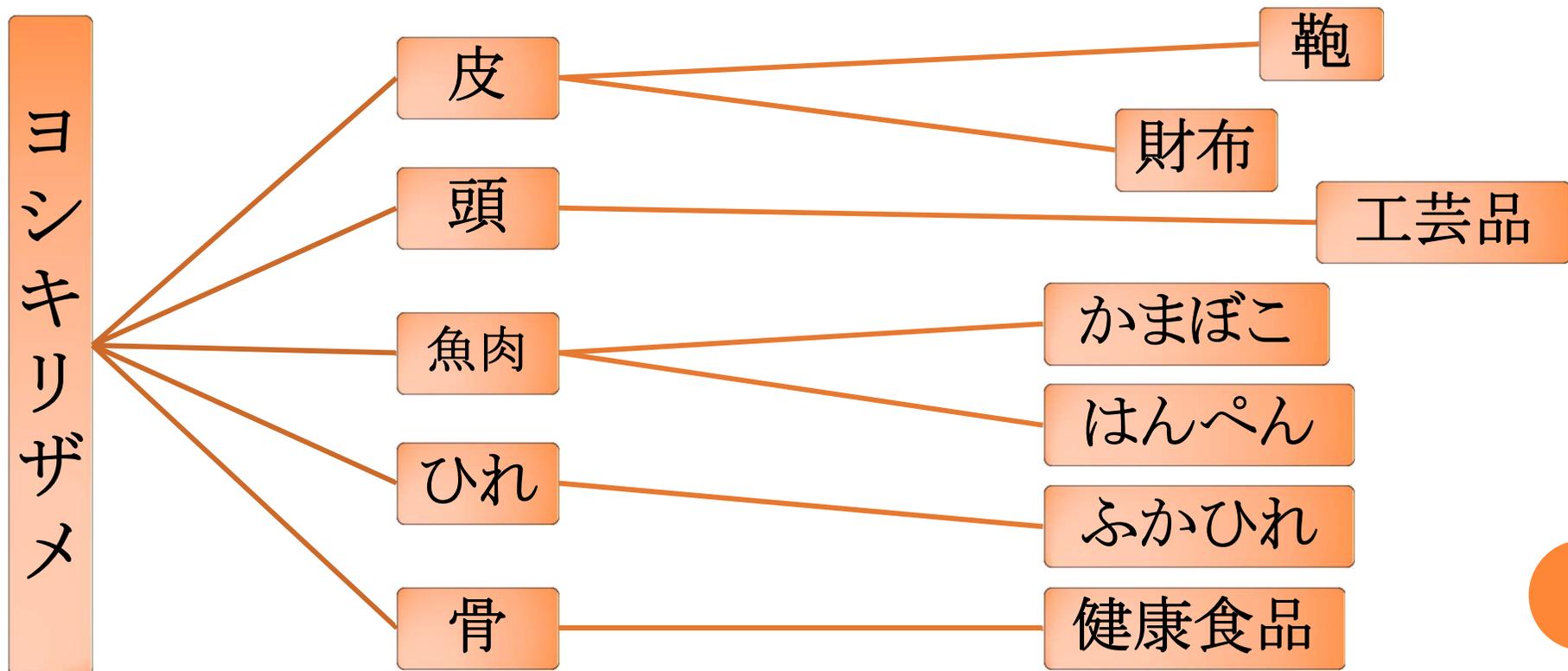
- 気仙沼圏域では80%が水産業・水産加工業に関係
 - 市では水産業・水産加工業に関する多くの復興計画を立案。

ふかひれ加工業に着目
した復興計画を検討

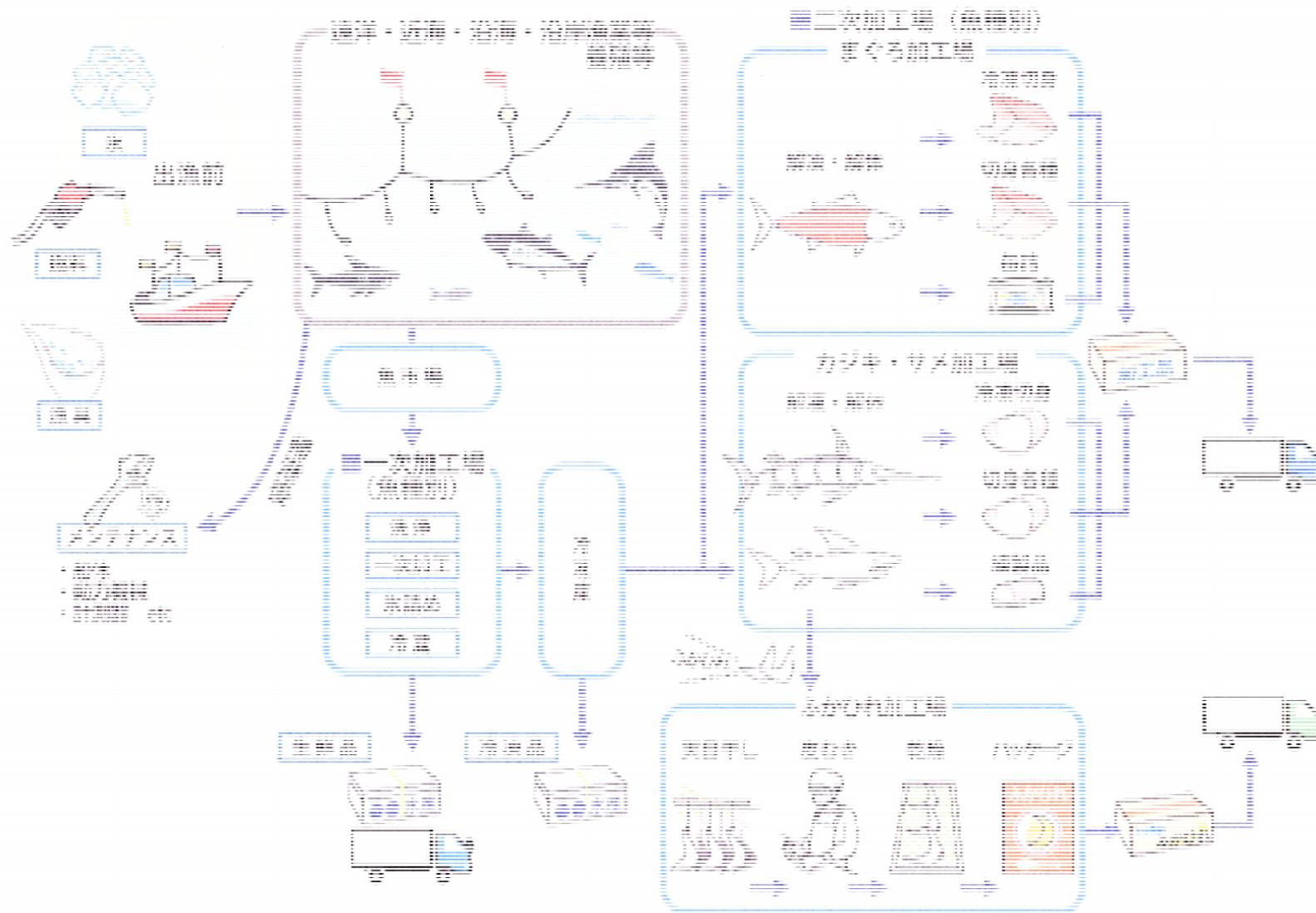


さめ加工業について

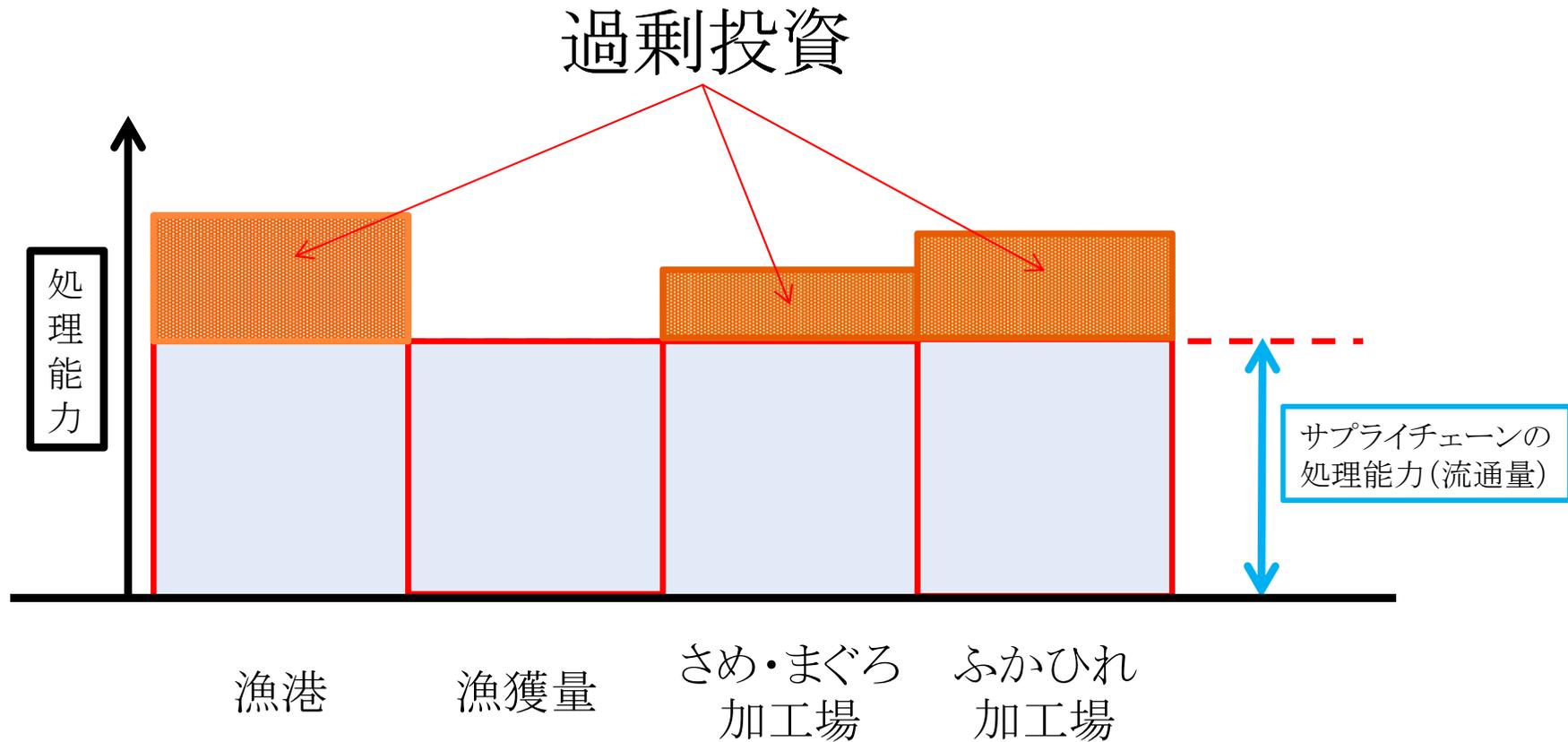
- さめの身はコラーゲン豊富で高たんぱく、低脂肪であるが、低価格で水っぽいさめの身は歩留りが悪いいため、あまり商品にはなっていない。



さめのサプライチェーン



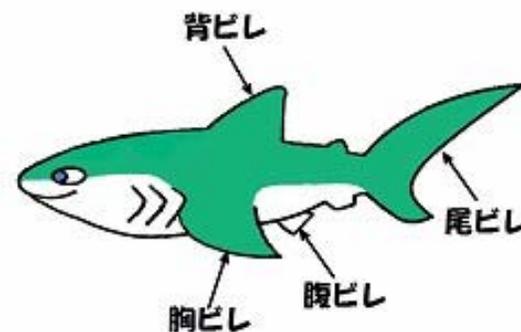
さめのサプライチェーン



ふかひれ加工業について

- ふかひれとは？

さめ類のヒレを乾燥させ加工したもの。

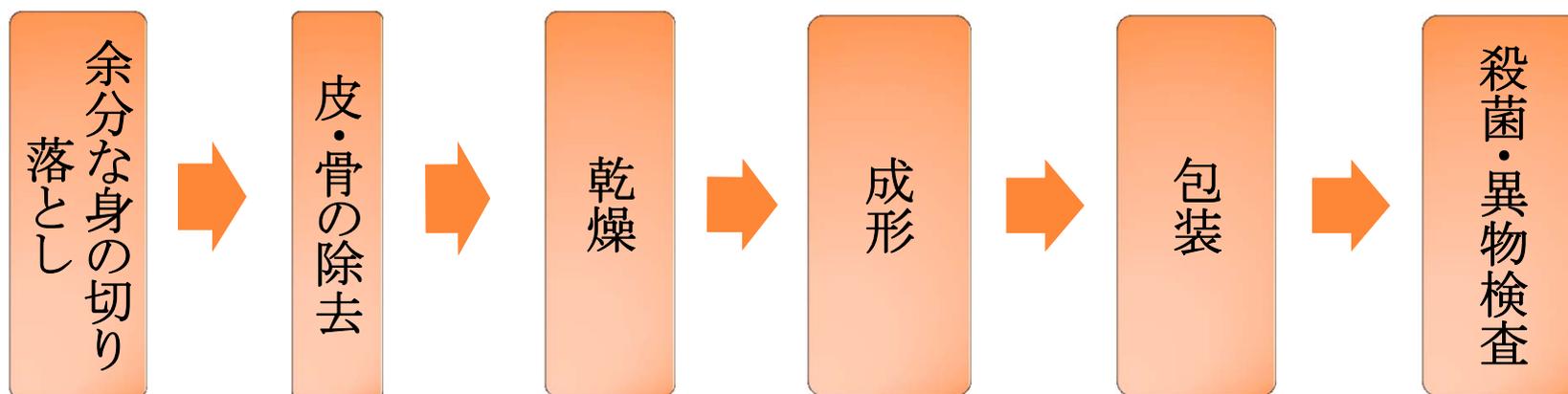


出典: 気仙沼市 フカヒレ物語

- ふかひれ加工に必要な機械設備

殺菌釜・充填機・真空包装機・金属探知機・X線検査機・ボイラー・浄化槽・汚泥処理機・二重釜・冷風乾燥機・ニーダー など

- 製造工程

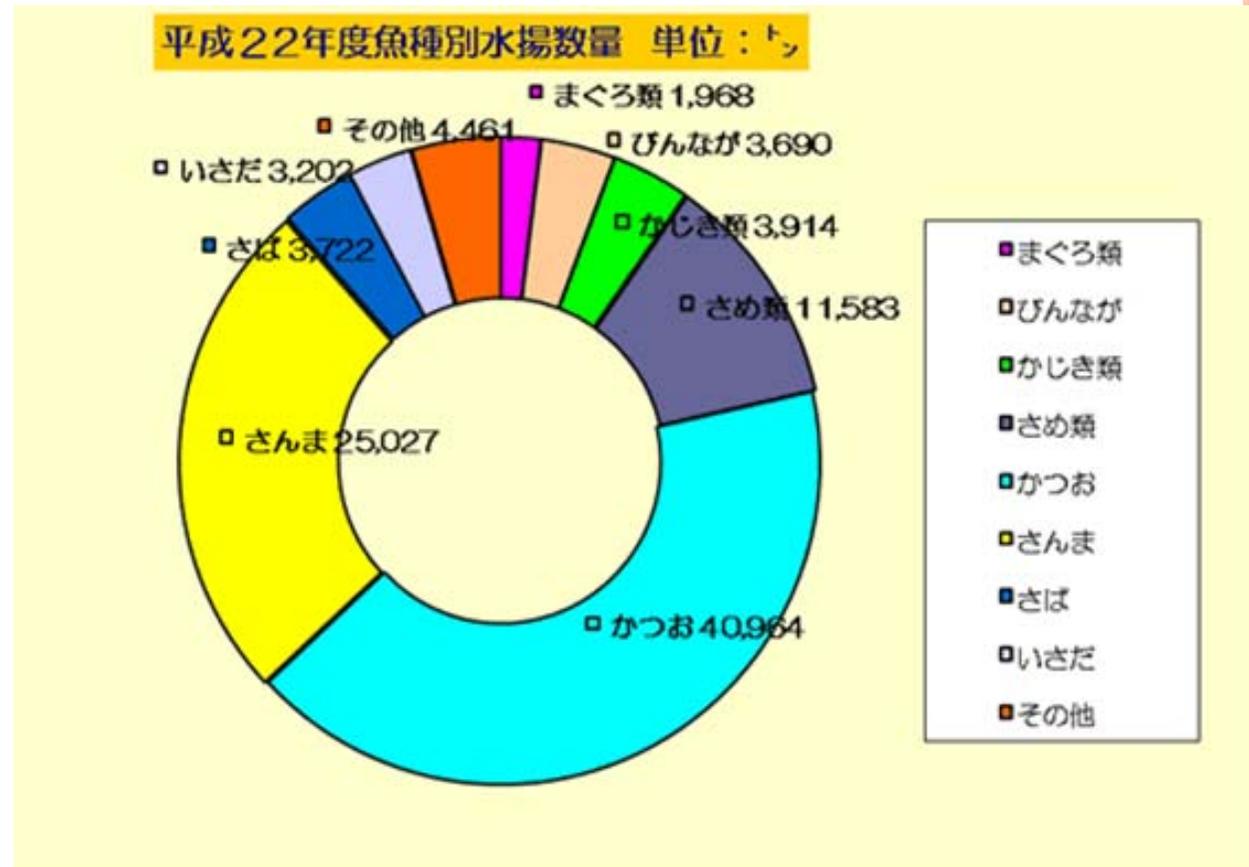


ふかひれ加工業について

- ひれの歩留まりは5～8%
- ひれを乾燥させたときの歩留まりは約48%



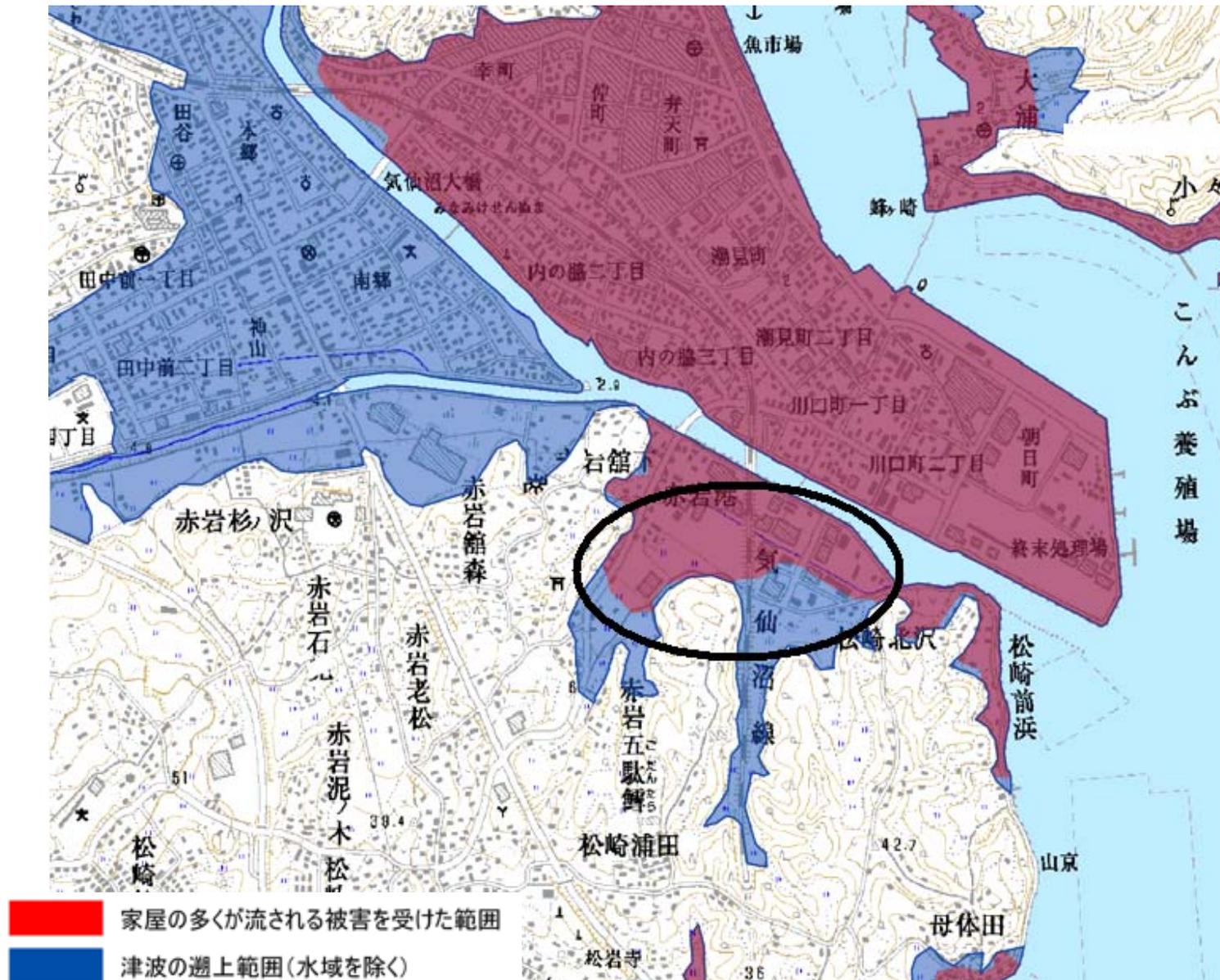
- ふかひれの歩留まりは約2.4～3.84%
- ふかひれの生産量
 11583×0.0312
 $= 361.3896 (t)$



出典：気仙沼漁業協同組合 統計資料



ふかひれ加工業の復興計画



まとめ

- 本研究では気仙沼市における、ふかひれ加工業の復興計画について検討した。
- ふかひれ加工業には、漁港、マグロ加工業、魚肉加工業などが関わっている。
 - 全てを一体化した復興計画を考えていく必要がある。
- 漁港や水産業関係は沿岸地域にあったため、過去のデータが流されてしまったことがわかった。
 - 新たな資料を基に、再び検討することも必要。



今後の課題

- 本研究では、2つのふかひれ加工業社についての情報から検討を行った。

→ より多くの企業について調べる検討していく必要がある。



ご清聴
ありがとうございました

